

育育てる



みんなおいでよー

家の中に、赤ちゃんとお母さんが2人きり。赤ちゃんが泣いている。どうしたの？ミルクはさつきあげたでしょ？おしめも換えたよ。何が悲しいの？私まで涙が出てきちゃうよ…。

核家族で、ご近所さんも顔を見たらあいさつする程度、ちよっとした不安を相談する相手が近くにない子育て家庭が増えています。

『子育て支援ボランティア・すくすくやぎっこ』は、子どもの遊び場が欲しい、友だちが欲しい、外に出たい、そんな子育てお母さんの声から平成14年に誕生。ボランティア代表をされているのは八木眞沙代さん（右の写真・左）。

「地域には、先輩お母さんや経験豊富な人材がたくさんおられます。子育ては卒業したけど、何か

私にできることはないかしら？そこから支援の輪が広がりました」

月に一度の「みんなおいでよー」の日には、毎回開催内容や場所を変えて親子や地域の人たちとの交流が行われます。5月21日は、氷室の郷で「いちご狩りといちご大福作り」。たくさんの親子が集まりました。「久しぶりやん！どうしてた？」「最近、上の子がやたら抱っこをせがむねん。赤ちゃん返りやらか」「3人目、女の子産まれたって？おめでとう」何げない会話の中で小さな情報交換が行われます。お互いの悩みや喜びを分かち合うことができ、自信を持って子育てができる環境がはぐくまれます。



▲「みんなおいでよー」に参加される親子

広がる、支援の輪

月に一度だけでなく、もっとみんなとゆったりとした交流の時間を過ごしたいというお母さんたちの願いが実現。毎週火曜日と木曜日の午前には、親子の集いの広場「ミニすくすく」が市役所八木支所の一室で開かれています。

八木さん

「スタッフ以外にも先輩ママの中から『ちよボラ（ちよつとボランティア）さん』ができて、自主的に活動のお手伝いをしてくださるようになりました。まだまだ少ないですが、お父さんの参加もあります。みんなでみんなの子どもたちを見ながら、自分たち自身も楽しく過ごしてもらえていると思います」

今年から『ちよボラさん』に変わった下工垣博子さんは、

「結婚してから八木に住み、近くに参加するようになりました。この『ミニすくすく』も、当初は週1回だけだったのが、今年4月からは2回に増えて、昼食を一緒に食べたいという声から、時間も午後1時まで拡大されるようになりました。ここに来たら仲間がいるし、クチコミで広げて、みんな気軽に来れるときに来たいです」。



▲「ミニすくすく」では、親も子もそれぞれの時間を過ごします

親子を支える地域のチカラ。手作りの木製おもちゃの提供、おやつ作りの指導、人と人がつながり、いろいろな形で子育て支援の輪が広がっています。お母さんたちが笑い、子どもたちもにっこり、そしてスタッフも微笑む。みんなの笑顔がいっぱいあふれていました。